



## 持続可能な水資源の確保と水供給

### すべての人々に安全・廉価な水を届ける

カンボジア プンブレック浄水場拡張計画 ほか

#### 「プノンペンの奇跡」後の新たな課題

長い内戦で荒廃したカンボジアの首都プノンペンで、JICAは1993年から上水道の整備事業への協力を開始。それからわずか10年で、24時間、蛇口から直接飲めるほど質の高い水を供給できるようになりました。この劇的な変化は「プノンペンの奇跡」と呼ばれ、世界を驚かせました。

しかし、経済成長や人口の増加により、首都圏では水需要の増大への対応が喫緊の課題となっています。また、地方都市では大小400以上もの民間の水道事業者が給水サービスを行っており、なかには浄水場の運営や水質の管理が十分できていない事業者もあることが問題となっています。

#### 首都圏と地方都市の水問題に取り組む

そうしたなか、JICAは2022年11月に首都プノンペンに配水しているプンブレック浄水場拡張事業への無償資金協力を開始。浄水施設などの増設を進めるほか、完成後10年間は日本企業が運営と維持管理を行うことでライフサイクルコスト※の低減を図ります。この期間に、壊れる前に対処する予防保全や在庫管理、職員の能力開発などの日本企業が持つノウハウを移転することで、将来、カンボジア側でこれまで以上に効率的な事業運営ができるようになることを目指しています。

また地方都市も含め、すべての人々に安全・廉

価な水を安定的に供給するため、JICAは2018年に技術協力プロジェクトを開始。水道事業の許認可や水道料金の設定方法などを定めた水道法の制定作業に協力したほか、水道事業者の監督などを担う行政職員の能力向上に取り組みました。その結果、2023年3月に水道法が公布され、今後は民間を含めカンボジア全体の水道サービスの質が向上することが期待されています。

JICAはこれまで30年、継続してカンボジアの水道整備に協力してきました。現在こうしたカンボジアの経験を学ぶため、アジアやアフリカから多くの関係者が研修に訪れるまでになっています。

※施設の建設、運用、保全、修繕、解体や廃棄まで、そのライフサイクルに要する費用の総額のこと。

#### VOICE

##### 水道法の施行にJICAと取り組みます

カンボジア工業科学技術革新省 水道総局  
総局長  
タン・ソクチアさん



水道法の公布は非常に重要な成果でした。今後は関連する政令や省令の整備のほか、設備の維持管理や保守計画の策定、効率的に水道事業を運営するためのキャパシティビルディングなどが必要です。これからもカンボジアの水道法の着実な施行に向け、JICAと取り組んでいきたいと思っています。

##### カンボジア側の期待を感じています

JICA専門家  
株式会社日水コン  
岡崎浩一さん



プンブレック浄水場拡張計画の大きな特徴は、日本企業が施設の運営を担うことです。この計画の準備段階からカンボジア側からは「日本の民間企業の技術や知見を活用したい」という期待が伝わってきました。この協力を通じて、両国の信頼関係をさらに発展させていきたいと思っています。



プンブレック浄水場の拡張後の完成予想図